分野	専門分野	担当者（職種）	薬師神真季（専任教員）
授業科目	母性看護学概論	実務経験	
		単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
対象学年・学期	2 学年・前期	DP との関連	DP2

授業の目的	母性看護の基盤となる概念、リプロダクティブ・ヘルスの基礎や動向を理解し、母性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病予防を目的とした看護を学ぶ。
授業の概要	前半は、まず、母性看護の歴史的変遷と現状を知る。講義を通して、母性看護の基礎となる概念について学び、母性看護を必要とする対象の特徴と母性看護独自の特徴を理解する。特に、セクシュアリティ、リプロダクティブ・ヘルスについて考えを深める。また、実際に起こっている母性看護領域における倫理的問題を探し、自己の考えをまとめておく。それについて意見交換し、生命倫理について考える機会とする。 後半は、母性看護の対象理解のために、性周期・人の発生を学び、ライフステージ各期における看護、リプロダクティブヘルスケアを学ぶ。また、グループワークにて災害時の支援を考える。

授業計画（回・内容・授業形態）

回	内容	授業形態
1 2 3 4 5	1．母性看護の歴史的変遷と現状 2．母性看護の基盤となる概念 1）親になることと母性 2）愛着形成・母子相互作用・母親役割 3）家族の機能・発達 4）セクシュアリティ、セックス、ジェンダー・性の多様性 5）リプロダクティブ・ヘルス／ライツ 6）ヘルスプロモーション 7）プレコンセプションケア	講義
6 7	3．母性看護のあり方 4．母性看護に必要な看護技術 5．母性看護における倫理	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
15-1	筆記試験①（1 時間）	
8 9	6．母性看護の対象理解 生殖に関する生理（性周期、受精・着床、性分化のメカニズム）	講義
10 11	7．女性のライフステージ各期における看護 1)思春期・成熟期 （第二次性徴、性意識・性行動の発達、月経異常、月経随伴症状） 2)更年期・老年期（ホルモンの変化、更年期症状）	講義
12 13	8．リプロダクティブヘルスケア 1）性感染症 2）人工妊娠中絶 3）性暴力 4）児童虐待 5）国際化社会	講義
14	9．災害時の妊産婦と家族への支援	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
15-2	筆記試験②（1 時間）	

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学概論　医学書院 国民衛生の動向
参考図書	病気がみえる、　　系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑨ 女性生殖器
評価方法	筆記試験 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。60 点以上を合格とする
履修上の注意	事前にテキストを読み授業に参加してください。 グループワークには、各自準備をしたうえで、積極的に参加しましょう。

分野	専門分野	担当者（職種）	田中千鶴（助産師）
授業科目	母性看護援助論Ⅰ （正常経過の看護）	実務経験	有（医療機関に 15 年以上勤務）
		単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
対象学年・学期	2 学年・前期	DP との関連	DP2

授業の目的	正常経過にある妊産褥婦と新生児およびその家族への看護を実践するための基礎的知識（正常な経過・アセスメント・看護）を学ぶ。
授業の概要	DVDや模型を利用した講義を通して、妊娠・分娩・産褥の正常過程を学び、アセスメントできるようにする。 新生児の生理を理解し、アセスメントができ、また育児技術について学ぶ。

授業計画（回・内容・授業形態）

回	内容	授業形態
1	1．子供を産み育てることとその看護 2．出生前からのリプロダクティブヘルスケア	講義
2	3．妊娠期における看護 身体的特性、心理・社会的特性 妊婦と胎児のアセスメント 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント　妊婦健康診査 妊婦と家族の看護　妊娠中の保健指導	講義
3 4	4．分娩期における看護 分娩の要素 分娩の経過（模型・人形） 産婦、胎児、家族のアセスメント 産婦と家族の看護　産痛緩和のための身体的ケア 分娩期の看護の実際	講義 分娩経過（DVD 視聴）
5 6	5．産褥期における看護 産褥経過 褥婦のアセスメント 褥婦の看護　乳房ケア	講義 乳房ケア（DVD 視聴）
7	6．新生児期における看護 新生児の生理 新生児のアセスメント 新生児の看護	講義
8 (1 時間)	筆記試験	

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論　医学書院
参考図書	
評価方法	筆記試験 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。60 点以上を合格とする
履修上の注意	事前にテキストを読み授業に参加してください。

分野	専門分野	担当者（職種）	高崎　萌　（医師）
授業科目	母性看護援助論Ⅱ （異常経過の看護）	実務経験	有
単元名	異常	単位数（時間数）	1 単位（30 時間の うち 16 時間）
対象学年・学期	2 学年・前期～後期	DP との関連	DP2

授業の目的	異常経過にある妊産褥婦と新生児およびその家族への看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。 妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期の健康問題と治療について学ぶ。母性看護を実践していく基礎として、医学的立場から以下の主要項目を理解することを目的とする。 ・産科学異常編（妊娠、分娩産褥、新生児）
授業の概要	遺伝相談と家族計画を理解し、続いて妊娠の異常、分娩の異常、新生児の異常、産褥の異常の順に進め学習する。疾患および治療・検査についての理解を深める内容とする。

授業計画（回・内容・授業形態）

回	内容	授業形態
1	遺伝相談と家族計画	講義
2	妊娠の異常（ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症）	講義
3	妊娠の異常（妊娠疾患、多胎妊娠、流早産、子宮外妊娠）	講義
4	分娩の異常（産道、娩出力、胎児異常）	講義
5	分娩の異常（胎児付属物の異常、分娩時異常、分娩後の異常、産科処置と手術）	講義
6	新生児の異常（新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児、高ビリルビン血症、ビタミンK欠乏性出血症）	講義
7	産褥の異常（子宮復古不全、産褥期発熱、産褥血栓症、精神障害）	講義
8	まとめ	講義
	筆記試験	

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論　医学書院
参考図書	病気が見える vol.10　産科　メディックメディア
評価方法	筆記試験 但し、母性看護援助論Ⅱ（異常経過の看護）の「異常」50点、「看護」50点で100点満点とする。 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。60 点以上を合格とする。
履修上の注意	事前にテキストを読み授業に参加してください。

分野	専門分野	担当者 （職種）	山本裕紀（助産師）
授業科目	母性看護援助論Ⅱ （異常経過の看護）	実務経験	有 （医療機関に 10 年以上勤務）
単元名	看護	単位数（時間数）	1 単位 （30 時間のうち 14 時間）
対象学年・学期	２学年・前期～後期	DP との関連	DP２

授業の目的	異常経過にある妊産褥婦と新生児およびその家族への看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。 妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期の健康問題に対する看護について学ぶ。
授業の概要	母性看護援助論Ⅰ（正常経過の看護）での学習をふまえ、異常経過にある妊婦・産婦・褥婦および新生児の対象を理解し、家族を含めた看護を学ぶ。異常の早期発見に努め、早期治療に向けて円滑、さらに適切な看護が提供できる方法を学ぶ。

授業計画（回・内容・授業形態）

回	内容	授業形態
1	ハイリスク妊婦の看護 高年妊婦、若年妊婦、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、切迫流・早産、多胎妊婦	講義
2	破水が生じた産婦の看護 分娩遷延のリスクのある産婦の看護 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護	講義
3	異常分娩時の産婦の看護 帝王切開術を受ける産婦、急速遂娩を受ける産婦 分娩時異常出血のある産婦の看護	講義
4	低出生体重児の看護 呼吸窮迫症候群 高ビリルビン血症児の看護 新生児一過性ビタミンＫ欠乏症	講義
5	感染症をもっている褥婦の看護 Ｂ型肝炎、成人Ｔ細胞白血病、エイズ 子宮復古不全にある褥婦の看護 乳房トラブルのある褥婦の看護 育児に困難さをかかえる母親への看護	講義
6	精神障害合併妊婦と家族の看護	講義
7	死産、障害がある新生児を出産した褥婦およびその家族への看護	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
	筆記試験	

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論　医学書院
参考図書	病気が見える vol.10　産科　メディックメディア

評価方法	筆記試験 　但し、母性看護援助論Ⅱ（異常経過の看護）の「異常」50 点、「看護」50 点で 100 点満点とする。 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。
履修上の注意	事前にテキストを読み授業に参加してください。

分野	専門分野	担当者（職種）	薬師神真季（専任教員）
授業科目	母性看護援助論演習	実務経験	
		単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
対象学年・学期	2 学年・後期	DP との関連	DP 2

授業の目的	妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期の看護に必要な看護技術の方法・根拠を理解し、母子の看護が実践できる基礎的能力を養う。
授業の概要	ウエルネスの思考を学び、既習の母性看護援助論ⅠⅡの学習内容をふまえ、事例をもとに対象に応じた看護を考える。併せて、各期に必要な看護技術を習得できるよう演習を行い、修得した看護技術を、母性看護学実習で活用できることを目指す。

授業計画（回・内容・授業形態）

回	内容	授業形態
1	1．母性看護に必要な看護技術	講義
2 3	2．アセスメント（ウエルネスの考え方）	講義 グループワーク
4 5	1）褥婦のアセスメント 観察・情報の整理・アセスメント・必要な援助	グループワーク
6 7	2）新生児のアセスメント 観察・情報の整理・アセスメント・必要な援助	グループワーク
8 9	3）妊婦のアセスメント 観察・情報の整理・アセスメント・必要な援助	グループワーク ※アセスメント提出
10 11 12 13 14 15	3．母性看護に必要な看護技術の実際 1）妊婦に必要な看護技術（妊婦体験含む） NST、ﾚｵﾎﾟﾙﾄﾞ触診法、子宮底・腹囲測定 2）産婦に必要な看護技術 産痛緩和 3）褥婦に必要な看護技術 子宮底の測定 4）新生児に必要な看護技術 沐浴、抱き方・寝かせ方	講義 知識確認試験 演習 ※全て提出

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学概論　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　医学書院
参考図書	マタニティ診断,医学書院 病気がみえる vol.10　産科　メディクメディア
評価方法	アセスメント（第 2～9 回）・演習時の学び・授業態度・知識確認試験（第 11 回）の総合評価 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。
履修上の注意	●グループワーク・演習に積極的に参加できるよう、事前学習・個人ワークをしっかりと行いましょう。 ●母性看護援助論ⅠⅡの学習内容を振り返りながら演習を行います。必要なものを各自持参してください。 ●第 10 回までに演習を行う技術についてルーズリーフにまとめましょう。 ●A４紙ファイルを１冊準備してください。